

7月18日の豪雨に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

7月18日の大雨による農業被害について

南会津町や只見町、金山町で河川のはん濫や土砂崩れが発生し、水田や畑等への浸水や土砂流入などがありました。

なお、詳細な被害状況は調査中です。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所に決して近づかないでください。

1 水 稲

- (1) 浸水・冠水した場合は、少しでも早く葉先を出すよう早急に排水しましょう。また浸水・冠水した水稲は耐干性が低下しているため、水田を急に干すことを避けましょう。
- (2) ほ場内に流木等の異物が流入した場合は、早期に取り除きましょう。
- (3) 浸水・冠水したほ場では病害虫が発生しやすくなるため、ほ場をよく観察し必要に応じて薬剤による防除を行いましょう。
- (4) 土砂流入が比較的少ないほ場は、間断かんがいの水管理により土壌への通気を図りましょう。
- (5) 土砂が20cm以上流入した場合は、イネの機械的損傷等のため減収や品質低下が予想されます。今後の生育状況に応じて刈り分け等を実施しましょう。

2 野菜・花き

- (1) 共 通
 - ア 停滞水は、水中ポンプや明きよなどで速やかな排水を行いましょう。
 - イ 土砂の流入、流出や決壊等でほ場が損壊した場合は、排土や客土によって補修を行いましょう。また、崩壊した畦は、土上げ等を行って畦を修復しましょう。
 - ウ マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいため、マルチを一時的にはぐなどして畦の乾燥を促しましょう。
 - エ 冠水時間が長く回復の見通しが無い場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょう。

(2) 野 菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復させましょう。
- イ 果菜類では、損傷を受けた果実は早急に摘果し、着果負担を減らし草勢回復を図りましょう。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、直ちに品目ごとの防除基準に従い適切な薬剤散布を行いましょう。
- エ 大雨や冠水により土壌養分が流亡しているため、速効性の肥料を追肥します。草勢回復を図るためには、液肥のかん注や酸素供給剤の施用を行いましょう。
- オ 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。
- カ トマトについては、草勢維持のため液肥や酸素供給剤の施用を行い、損傷を受けた果実や茎葉は早急に摘果や整理をしましょう。また、根が傷み萎凋が見られるところでは、寒冷紗等で遮光して萎凋を軽減しましょう。
- 冠水したほ場では、疫病や軟腐病、灰色かび病が発生しやすくなりますので、発生に注意し薬剤散布を行います。灰色かび病は、花卉や罹病した葉・果実の除去を行い防除しましょう。
- キ アスパラガスについては、倒伏株は、できるだけ早く起こすとともに、冠水したほ場においては薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。

(3) 花 き

- ア キクやリンドウ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
- イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>